

## 架け橋

岐阜市立精華中学校 3年

太田望琴(おおた みこと)

「ないものを嘆くより、今あるものに喜びを感じ、全力で楽しんでいこう。」

この言葉は2年生の学級解散式の時に担任の先生がクラスみんなにおくった言葉です。私はコロナ禍の中、中学校生活を送っています。制限があり、学校行事が中止になったり、オンラインの授業を体験したりし、コロナだから仕方がないと言って、あきらめてしまっていた部分もありました。しかし、普段の生活をしている中でも楽しいことはたくさんありました。コロナを経験したからこそ、人との関わりが深くなったり、特別な思い出がたくさんできました。

私は、人と人とを明るく前向きにつなげていけるような人になりたいです。そう思ったのには三つ理由があります。一つ目は、私が多くの人に支えられて生活をしているという風を感じたからです。そう感じたきっかけは、美術の授業です。授業中に今までの自分を振り返り、未来の自分を想像したものから、作品のテーマを決めるという機会がありました。そこで、私の気持ちの変化に必ず誰かが関わっているということに気付き、今の私がいるのは、関わってくれた何百人、もしかしたら何千人の人のおかげなんだという風に思えたからです。その小さなきっかけは、人と出会ったとか、けんかをしたとか、友達になったとか、本当に些細なことでした。だからこそ私は、その人と人との関わりが私に大きな影響を与えてくれていて、それがとてもありがたいことだという風を感じました。二つ目は、コロナ禍によって、人と人との関係がうすくなってきているという風を感じたからです。コロナで自粛の動きが広まり、コロナ前まで、よく会って話していた人と会って話さなくなってしまうりと人との接点が少なくなっているという風を感じたからです。三つ目はコロナだからという考えがどうしても生まれてきてしまっているからです。コロナだから仕方がないと言ってあきらめてしまっていた私もいました。しかし、今だからこそ出来ること、出来るようになったことがたくさんあると思います。「でも」「だって」ではなくプラスにとらえて行動していけるようになりたいです。私は明るく前向きに、人と人をつなげられるような人になりたいです。

私の将来の夢は、市民の方々をつなげられるような市役所の職員になることです。私が市役所の職員になりたいと思ったのには二つ理由があります。一つ目は、私の親戚に市役所の職員の方がおり、身近な職業だったからです。学校の宿題の職業インタビューでインタビューをした時にやりがいのある仕事だなという風に思ったのをきっかけに、調べ学習で調べ、やってみたいという風に興味がわいたからです。二つ目に市民の方々のために何をどうするとより良くなるのかを自分の手で考えることができるというところにひかれたからです。市民の方々のためのサービスを考えたり、市民の方々の生活に寄り添って相談にのることは、市役所の職員の方にしかできない仕事だと思い、よりやってみたいという風に思いました。

私はこの将来の夢をかなえるために、自分と向き合うことを大切にしていきたいです。私は昨年、自分の弱さを知り、その弱さを克服するには、人を見ること、自分と向き合うことの二つが大切なんだと知りました。私は何かに向かって走り出すと、自分のことも、周りのことも見えなくなってしまうところがあります。しかし、そのままでは自分にとっても周りにとっても、良いことはありません。なので、ただやりたいことに向かって一直線に突き進んでいくのではなく、ふと立ち止まって、自分を振り返れるようになりたいです。

ないものを嘆くより、今あるものに喜びを感じ、全力で楽しんでいけるような心を持ち、明るく前向きに人と人をつなげられるような人に私はなりたいです。